

# 警 城 時 報

行 發 日 三  
印刷所 警 城 時 報 社  
印刷 人 岡 田 弘 成  
一 部 金 五 十 圓  
廣 告 料 一 行 十 四 字 五 十 圓  
日 刊 日 曜 祝 祭 日 翌 日 休 刊

## 凄 慘 な 船 火 事

### 乗 組 員 は 無 事 救 助

青森縣八戸市港町字館鼻十二を行つた午後十一時燈火用の一後藤要吉氏所有揚網船「カベイト」の艀が破裂し火災を起し船員見丸(十二)噸二十五馬力は起し海上凄慘な光景を呈したの二日夜八時半頃イワンを満載しての作漁業者吉田清松氏は漁江名町仲之作漁港に入港せんと夫十数名を連れて危険を冒して港口不案内のため防波堤二出動、乗組員船頭佐々木榮次郎百間沖で暗礁に乗りあげ船体が(三〇)外四名を無事救助した。危険に瀕したので船を全部海中見丸は午後十二時全焼、損害に投じ船体を軽くして避難作業一萬圓である。

### 古 川 炭 礦 で 四 百 七 十 圓

好間村古河炭礦下野所長以下職員従業員一同は静岡大火災義捐金として四百七十圓を送つた。

### 長 谷 川 氏 百 圓 寄 附

四倉町議員漁業家長谷川西次郎氏は去三十一日百圓を四倉町統後奉公會に寄附した。

## 木 炭 を 送 る と 稱 し 五 百 餘 圓 詐 欺

下小川村字紫原無職上野義重(品並に景品廢止、舊正月一日か三六)は最近木炭不足に乗じ平市白銀町石井木炭店方に至り木炭を賣ると稱して三百八十圓を騙取した外カフエー平會館その他で同様手段で二百餘圓の詐欺を働らき平署に検舉された。

## 軍 用 保 護 馬 銀 練 指 導 會

石城郡産馬畜産組合では三日平市團休事務所で軍用保護馬銀練指導員講習會を開き午後市内八幡小路で實地講習を行つた。

## 酒 類 商 申 し 合 せ

平市酒類商會では毎月與盟奉平日は休業、舊年末年始の贈答

## 奇 緣 の 三 輪 車

### 勇 士 の 靈 け 夢 路 に 通 ぶ

勇士の靈は夢路に通ふ、これは戦死した石城郡錦村字中迎出身立花部隊正木吉年上等兵(昨報)と愛媛昭人ちゃん(六)を説く奇話は、昨年十二月十七日朝昭人ちゃんが発用の三輪車に乗つて野良道をドライブして来た時、前方から来る馬車と衝突し、昭人ちゃんをひきつり床から起き上るなり、きよのふから二日續けて吉叔父ちゃんの歸つた夢を見た、不思議なア、と云ひ出した、その上姉ひさ子ちゃん(二〇)も亦昨夜父が首目の傷に手を曳かれて家の門口に立つた弱々しい姿を夢に見たと告げ、若しやと家族一同戦地の身の安危を氣遣ふうち同夜果して「名譽の戦死」の公報が入つたのである。

### 中野齒科

平市田町電五〇九  
院長 中野 恵 次

刑務所を出たばかりで脅迫で檢舉

## 刑 務 所 を 出 た ば かり で 脅 迫 で 檢 舉

内郷村大字高坂土工箱崎一郎(問として金一封を贈つたが、本二八)は脅迫罪で懲役三ヶ月に町横田文吉氏はそれを四倉町統後奉公會に寄附した。

## 慰 問 金 を 統 後 會 に 寄 附

四倉町統後奉公會では舊年末に羽田飛行場に勤めていた叔父は一昨年夏の旅客機墜落大惨事の際丁度出張中で幸ひ奇蹟的に軍人遺家族に對し昨日慰問金を寄附した。

## 精 動 通 信

### 戰 亂 の 歐 洲 より 歸 り て 世 界 を 指 導 す べき 日 本 國 民 の 覺 悟

### 吉 岡 生

戦亂の歐洲から歸つた私が日本の爲政者の方にお願ひ致したいことがございます。それは私も國民として此の非常時の難關を突破するためには、どうしても今日の如き統制に出づるの外に途なきことと考へてゐる、決して戦争前のやうに安閑として居られない、どなたも緊張して居られることは申すまでもありません。けれどもお金の有る人は買占めをするし、闇取引

## 平 驛 の 貨 物

平驛に於ける一月中の貨物の幅は、前月の如く、上旬以来引續く増収に替へない黒字を豫想されてゐたが、下旬の取扱ひは、發送(四六二噸)一六四三、八一九噸増、到着(八〇五八、六六二六)一四三三噸増、收八四四七噸(五四九九)二九八噸増(播内前年)で上旬の増収四八〇四噸、中旬の同三二二噸を合せて實に一萬一千五十三噸の大増収を上げた。一月中の總量を示せば左記の如く到着の三四四噸は警務電所用の燃料炭が七九噸減じ、向ほ下旬に於ける主なる動きは發送で木炭九九、石炭七八一、セメント一四一噸、到着では一八八、蜜カン一三九、木材三五六、糖二四〇、石炭四八四、木炭五五噸等である。

## 中 支 か ら

佐藤部隊 饒幸一 聖戰下第四年の新春を敵と相対し砲聲の下に元氣に迎へました。皆様もきつと良き御越年と新春を迎へられたこと御推察致します。今や時局は好轉し新支那政権となり東洋平和を謳歌する日も間近に迫りたる感が致します。私共は益々聖戰下の總前

## 天 氣 豫 報

今晩は北の風一時曇明日は北西の風時々晴

## 警 城 無 盡

### 二 十 年 紀 念

平市の警務無盡會社は契約高に於ては縣下一の千百萬圓、東北では山形市の殖産無盡に於ける二千萬圓を突破する地位を占めてゐるが、皇紀二千六百年の本年が同社を創立せる大正十年の如く到着の三四四噸は警務電所用の燃料炭が七九噸減じ、向ほ下旬に於ける主なる動きは發送で木炭九九、石炭七八一、セメント一四一噸、到着では一八八、蜜カン一三九、木材三五六、糖二四〇、石炭四八四、木炭五五噸等である。

は手に取るやうに知つて居ります。要するに國民は、大切なものではありません。國民が一致するから初めて國が強くなる。又日本人程一致する者は何處にもございせん、外へ出て見て、日本人ほど國家を思ふ國民はない事が痛切に分ります。又一面飛躍的な國民であることが本當に感じられます。今後の非常時を切抜けました後の世界は、どうして日本人が世界を指導しなければならぬ時代が来る、斯う云ふ氣持を持つて私は歐洲から歸りました。國民各位はどうか御自重下さいまして、何としても今後の難關を能く切抜けるため御協力御努力下さるやう切望いたします。

### 御知らせ

#### 護愛資物

舊元日 正二日 八自肅休業  
 月三日 來ル舊正月元日ヨリ三日マ  
 デ休業致スコトニ協議ノ結  
 果決定仕リ候間舊年内ニ御  
 用命ハ仰付願上候

應順策國

尙來ル二月十五日ノ公休日ハ  
 營業可仕候  
 昭和十五年二月三日

#### 四倉商業報國會

#### 歸郷御挨拶

謹啓 時下嚴寒之候益御清適の  
 段奉賀候陳者小生今事變頭初應  
 召以來〇〇陸軍病院外科勤務中  
 は公私共多大の御高配を賜り大  
 過なきを得常に感謝仕居候  
 今般不圖も召集解除ニ相成歸郷  
 仕候就いては今後統後にあり一  
 層勉勵仕心組に御座候間何卒倍  
 舊の御鞭鞭を賜り度茲に謹みて  
 御挨拶迄如斯御座候 敬具  
 昭和十五年一月卅日  
 平市南町  
 上田耕作

#### 胃腸によく

#### 麻苺散

薬二日分 三十錢  
 四日分 五十錢  
 價九日分 一圓

平市四丁目 小野屋藥局  
 電話一四四番

#### 貸地廣告

平市新田前二六番ノ一 (縣道ニ副フ西側)  
 間口四間一分 六十坪  
 奥行十五間 六十坪  
 貸地料一坪二十五錢ノ割  
 洋細ハ左ニ御問合セ下サイ  
 中市大町  
 中野勇吉商店  
 電話一三三番

漢方 生公華  
 貼藥 濕布で名藥  
 助膜・氣管支・關節・神經痛・肺  
 炎・ロイマチス・扁桃腺・中耳炎・骨  
 膜・腰痛・疝疾に  
 藥二四五十錢  
 價八圓  
 專賣店 山野邊藥局  
 平市五丁目角

#### 泌尿器科 皮膚科

診療 午前八時より  
 午後九時まで  
 時間 午後九時まで  
 (入院隨意)  
 平市田町(電話六九二)  
 江尻醫院  
 醫學博士 江尻伊三郎

#### 移轉開業 (九月二十日ヨリ)

#### 耳鼻咽喉科 專門

#### 増田醫院

平市紺屋町(吉田眼科前)  
 電話六五一番  
 小生病氣療養ノ爲、休院致シ居リ候處今般全快、上記ノ  
 場所ニ移轉開業仕リ候間御通知奉ヘ御挨拶申上候  
 増田之

#### 平病院

院長 醫學博士 鈴木定藏  
 電話六四一番  
 内 科 院長 鈴木定藏  
 小 兒 科 副院長 土井利明  
 内 臟 外 科 副院長 高橋俊幸  
 皮膚泌尿器科 院長 鈴木定藏  
 レントゲン科 院長 鈴木定藏  
 物理療法科 院長 鈴木定藏  
 藥劑科 部長 吉本孝平

ロイマチス  
 五十錢入  
 一〇〇特  
 百錢入  
 二〇〇約  
 五百錢 五市  
 徳用罐 店丁野山  
 五〇〇 局藥邊野山

油と味噌  
 吉屋  
 平市古鍛冶町  
 電話(營業部専用)一〇番  
 (一般用)二七番  
 振替東京一九七五五番  
 明治生命磐城代理店 山崎與三郎

#### 開業 整形外科

#### 内木外科醫院

平市大町二番地  
 醫學博士 内木宗八  
 電話二九六番  
 入院隨時

内科外科  
 エックス光線  
 産婦人科  
 院長 安齋 徹  
 平市田町(電話四五七番)  
 安齋醫院  
 入院隨意

小兒科  
 平市南町  
 志賀醫院  
 (入院ノ需ニ應ズ)  
 電話一六二番

耳鼻咽喉科  
 入院自炊  
 の便あり  
 大和田醫院  
 平市南町(電話一〇七番)

産科・婦人科  
 平市田町  
 井坂醫院  
 電話五五九番  
 ◎入院隨時

耳鼻咽喉科  
 レントゲン科  
 醫學博士 高柳博明  
 平市驛前(電話三三六)